

の正確に適合するという理由、③平和的なキリスト教伝道を阻害する者は排除されなくてはならないという理由、の三つである。ただしここでも、地域的利害に高い関心を持った在地勢力と教皇との間には少なからぬ認識の齟齬が存在していたと考えるべきであろう。さて、これら三つの理由のうち、本論文でとりわけ重視したのが③の部分、つまり、異教徒への伝道を巡る問題である。ヴェンド人の「改宗」については、第二回十字軍の主要な勸説者であったクレルヴォーのベルナルがその書簡において触れていることで有名だが、こうした言説は東方、及びイベリア半島においてはわずかにしか見られない。この理由については諸説あるが、本論では、功徳 merit に与るための行為という枠組みの中で、戦闘と伝道とがパラレルなものとして認識されていた可能性を指摘した。またこれに付随し、Riley-Smith が十字軍を形容して用いた「動く修道院」という表現、及び K. A. スミスの議論を援用しつつ、「十字軍」に

おける戦闘地域を、罪の赦しと救済への過程が展開される「聖戦地」として認識するという仮説を提示することで第三章を締めくくっている。

以上、本論文では、第二回十字軍に関する近年の研究について概観しつつ、その主要な論点について考察を行った。多元主義的な枠組みからの第二回十字軍の再評価や第一回十字軍との連続性といった問題に焦点を当てたことにより、十字軍運動が持った中世社会との関連性や、十二世紀における「キリスト教世界の拡大」というより大きな文脈へのアプローチの可能性が提示されたと私は考えている。より個別具体的な事象に向けた研究の深化、及び他の時代・地域における十字軍運動と中世社会との関連性の問題を今後の課題とし、本要旨を終えようと思う。

〈考古学コース〉

副葬品からみた古代エジプト

中王国時代の埋葬

—装身具およびアミュレットを中心に—

山崎 世理愛

はじめに

古代エジプトの中王国時代は、古王国時代までの伝統を引き継ぎながらも、新王国時代へと続く新しい文化的要素が育まれた時代である。その一つに、王族ではない人々の死後に対する関心の高まりが挙げられる。もちろん、それは埋葬習慣から直接看取できる。たとえば、木棺にはコフィンテキストなどの呪文が来世に向けて書かれ、穀物倉庫、パン作り、ビール醸造などを表した木製模型が死後の生活のために副葬されたのである。そして、その影響は装身具・アミュレットにも表れたと言われている (Wegner 2010:124-127)。しかし、既往研究では、装身具の製作技術や種類紹

介に重点が置かれており、埋葬習慣と関連付けた論考は十分であるとは言えない。

そこで卒業論文では、中王国時代の埋葬習慣について、副葬品の中でも特に装身具から論じることを目的とした。そして、副葬品選択に際して、被葬者が属した集団間で価値規範の違いがどのように作用したのか、オブジェクト・フリーズと呼ばれる箱型木棺の内側に描かれた葬祭に関する絵・文書との比較分析から考察を行った。

第一章 先行研究と本論の目的

第一章では、中王国時代の埋葬習慣と装身具およびアミュレットに関する既往研究を述べ、次に本論の目的を提示した。

中王国時代の埋葬習慣については、多くの研究者によって、時期による変化が指摘されてきた。たとえば、センウセルト三世の治世を画期に、副葬品の内容に変化が生じることが判明している (Grajetzki 2003, 2006, 2014; Borriau 1991)。一方、埋葬習慣の地域性については、十分な研究がされ

ていない状況にある。

装身具に関する先行研究には、基礎的研究の嚆矢としてピートリによるアミュレットの分類 (Petrie 1914) が挙げられる。

そして、諸研究者がスカラベなど各々の遺物を対象に、型式分類や製作技法、象徴性を考察するに至る。中王国時代の装身具研究においては、出土遺物と図像資料をもとに、グライエツキーがタイプごとにまとめ、それぞれの役割について説明を加えている (Grajetzki 2014: 116-127)。このように、装身具に関する既往研究は、型式分類や製作技法、象徴性の考察に重点が置かれてきた。副葬品として定量的な分析はこれまで行われておらず、中王国時代の埋葬習慣と関連付けた論考も十分であるとは言えない。

以上のような既往研究をふまえ、卒業論文では、中王国時代の埋葬習慣について副葬された装身具から論じることを目的とした。特にその地域性に焦点をあて、定量的な分析を試みた。さらに、図像資料との比

較および考察によって、副葬品選択における地域性の要因を模索することを第二の目的に据えた。

第二章 装身具およびアミュレットが出土した墓の集成と分析

本章では、装身具・アミュレットが出土した墓を集成し、各地域における装身具の種類別出土傾向を分析した。

分析の対象地域およびその遺跡数は、メンフィス・ファイユーム地域 (八遺跡)、中部エジプト地域 (四遺跡)、南部エジプト地域 (六遺跡) である。これら三地域十八遺跡に分布し、形態の明らかな装身具が出土した一六〇基の墓を対象に分析を行った。本分析では、装身具自体の出土量ではなく、それぞれの装身具が何基の墓から出土したのかという「出土墓数」に焦点をあてた分析方法をとった。

分析の結果、メンフィス・ファイユーム地域では、襟飾りと幅広・幅狭腕輪の利用が多いのに対して、南部エジプト地域の主

要な装身具は、一連首飾りと一連腕輪であることが判明した。また、南部エジプト地域の装身具は、高価な素材で製作される傾向が見て取れた。中部エジプト地域は、メンフィス・ファイユーム地域と似た傾向にある。そして、「下エジプト王様式の衣装」と呼ばれる一連の装身具は、主にメンフィス・ファイユーム地域から出土し、中王国時代後半には、王族のみが所有できたことを示唆する分析結果となった。なお、襟飾りと幅広腕輪は、古王国時代の墓の壁画に描かれ、さらに、王族の墓から主要な装身具として出土することから、本来は「下エジプト王様式の衣装」と同様、王族の衣装に属していた可能性が考えられる。

第三章 装身具およびアミュレットとオブジェクト・フリーズとの比較

第三章では、前章の分析結果をふまえ、それぞれの地域あるいは社会階層が持つ副葬品における「理想」の描出を試みた。具体的には、王族の副葬品に対する「理想」

が表れていると考えられるオブジェクト・フリーズと出土した装身具の比較分析を行った。

まず、①実際に出土する装身具の種類とオブジェクト・フリーズに描かれた装身具の種類を比較し、両者の差異を分析した。また、未盗掘墓のみを対象に、②一人の被葬者がオブジェクト・フリーズに描かれた装身具のうち、何をどれほど実際の副葬品としているのかを分析した。

分析①の結果、実際には出土するが、オブジェクト・フリーズには含まれない装身具・アミュレットが多数存在することが分かった。そして、それらは個人のジェンダーやアイデンティティを示すような性格を持つ装身具であった。

続いて分析②の結果、メンフィス・ファイユーム地域に埋葬された被葬者には、オブジェクト・フリーズに描かれた主要な装身具のうち、比較的多くの種類が実際の副葬品として埋納されていることが判明した。それは、特に王族の墓において顕著で

あり、やはりオブジェクト・フリーズからは、王族の副葬品における「理想」が読み取れると言える。一方、南部エジプト地域では、実際に副葬される種類は少ない。ただし、オブジェクト・フリーズに含まれないジェンダーやアイデンティティを示す装身具が複数個体副葬される傾向が見出された。これは、メンフィス・ファイユーム地域に埋葬された被葬者であっても、社会的地位の低い者に副葬された装身具にも当てはまる。

第四章 まとめ

装身具の種類別分布状況を辿る中で、地域によって副葬される主要な装身具に違いがあることが判明した。そして、オブジェクト・フリーズとの比較結果から、メンフィス・ファイユーム地域や中部エジプト地域では、王族の埋葬を真似て副葬品を選択していた様子が窺えた。一方、王族の墓地と地理的に離れた南部エジプト地域では、オブジェクト・フリーズに描かれた装

身具のうち、副葬される種類は比較的少なく、高価な素材など王族の埋葬以外に「理想」を求めていると言える。

また、副葬される装身具には、いくつかの異なる志向が存在した可能性が指摘できる。それは、オブジェクト・フリーズに描かれたような伝統的に葬送儀礼に必要とされ、理想的な来世のために用意される装身具と、ジェンダーあるいはアイデンティティを示す装身具である。分析により、被葬者の社会的地位や埋葬地によって、様々な選択が行われていたことが判明した。たとえば、社会的地位が高くない被葬者の墓や、南部エジプト地域の墓に埋納された装身具は、ジェンダーやアイデンティティを示すものが多くを占める傾向にあった。よって、南部エジプト地域における副葬品選択では、装身具の素材に加え、ジェンダーあるいはアイデンティティを示すことに重点を置いていたのではないだろうか。以上より、地域や社会集団によって異なる価値規範が、副葬品における「理想」に反

映され、実際の副葬品にも影響を与えた可能性を指摘したい。

おわりに

これまであまり注目されなかった装身具から、中王国時代の埋葬習慣について論じた点で、本論は当該時期の研究において有益であったと思われる。しかし、いくつかの課題点も挙げられる。それは、被葬者の性別に関する考察を行っていない点や、中部エジプト地域の資料が著しく少ない点である。これらの課題点をふまえ、今後はさらに資料収集を進め、より詳細な分析を行う。そして、装身具だけではなく、その他副葬品、墓の構造、棺の様式など、広範囲な視点から検証を加えることで、中王国時代の埋葬習慣についてより深く理解できると考える。

引用文献

Bourriau, J. 1991 "Patterns of Change in Burial Customs During the Middle

Kingdom" in Quirke, S. (ed.), *Middle Kingdom Studies*, New Malden, pp.3-20.

Grajetzki, W. 2003 *Burial Customs in Ancient Egypt: Life in Death for Rich and Poor*. London.

Grajetzki, W. 2006 *The Middle Kingdom of Ancient Egypt*, London.

Grajetzki, W. 2014 *Tomb Treasures of the Middle Kingdom: The Archaeology of Female Burials*, Philadelphia.

Petrie, W.M.F. 1914 *Amulets*, London.

Wegner, J. 2010 "Tradition and Innovation: The Middle Kingdom" in Wendrich, W. (ed.), *Egyptian Archaeology*, West Sussex, pp.119-142.